

諏訪実業高校 全日制 令和4年度 学校評価表(自己評価)

学校番号47 長野県諏訪実業高等学校

学校目標			重点目標						
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。	2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。	1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着							
		2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成							
		3 地域社会を愛し活躍できる人づくりと進路の保証							
			今年度の重点目標						
			1 生徒が「実社会で信頼される人間」として自立し、進路実現を果たせるよう努めます						
			2 相手を尊重し、自己を肯定できる、よく豊かな心を育てます						
			① いじめ・暴力のない安心・安全な学校をつくります						
			② 授業を大切にし、生徒の基礎力と専門性を伸ばします						
			③ 他者と協働し、新しい創造を発信して、地域に貢献できる人材づくりを進めます						
			④ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます						
			⑤ 時間を守り、時間を有効に活用することができる生徒を育てます						
			⑥ 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます						
総合評価	〔成果と課題〕		〔改善策・向上策〕						
	・ コロナ禍により学校行事や授業内容等変更を余儀なくされたが、各分掌において創意工夫を行った教育活動を行った。急遽、学年(級)閉鎖になることもあったが、昨年度から、オンライン授業に取り組んでいるので、滞りなく授業を行うことができた。次年度以降も感染症予防に留意した教育活動を充実させていくとともに、そのような事態にも耐えうる教育活動を実践していく。		・ コロナ禍から徐々に日常に戻りつつある中で、感染には細心の注意を払いつつ、よりよい教育活動や学校行事が開催できるように取り組んでいきたい。						
教育活動	・ 新教育課程の実施初年度、新たな学びの方法や、評価方法、授業内でのタブレットの導入等、係を中心に検討・対応・実践した。今年度得られた成果と課題を話し、更に研鑽を深める必要がある。		・ 新教育課程の実施については、教科・教員によって理解・進捗度が異なった状態にある。時代の変化や多様な生徒に対応できるよう、教員、学校が変わっていく必要がある。						
	・ 生活指導係を中心に、毎朝の遅刻指導・服装指導により、多くの生徒が社会性を身につけつつある。しかし、一部の生徒の服装面の乱れに対して継続的に指導を行っていく必要がある。		・ 生活指導の対象となる生徒は固定化されており、担任・学年と連携し、遅刻や服装の指導、学習活動への取り組み等の改善指導を粘り強く行っていくことが重要である。また、家庭とも密接に連携を図り、協力して生徒の指導に当たることが必要である。						
教育活動	・ 特別な支援を要する生徒に関する情報を職員間で共有することにより、生活面・学習面の支援が行い易くなった。支援を要する生徒は年々増加傾向にあるため、更なる支援体制の強化が必要である。		・ 特別な支援を要する生徒が学校生活を円滑に行えるよう、職員間の情報共有やSC等外部との連携を強化し、よりよい支援・指導方法を充実させることが必要である。						
	・ SPH後継事業はコロナ禍により限定された範囲での実施となったが、引き続き地域との連携を深め充実した取り組みを行っている。生徒が主体となって取り組みができるように教員の指導体制の充実も図る必要がある。		・ 「地域入教育諏訪」という地域連携の仕組みを活かし、生徒が主体的で探究的な学びが行えるように今後も指導内容の研究を行っていく必要がある。						
対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度			改善策・向上策		
				A	B	C		D	
I 生徒指導 生活指導係 1学年 2学年 3学年	1 社会的資質・規範意識の向上	・ 安心・安全な生活環境の整備 特にいじめ・暴力の未然防止と、慎重・毅然な対応	・ 人間関係のトラブルから多対1となる構図が散見された。担任・学年・係と連携共有しながら対応を進めた。				○	・ 担任による生徒動向の把握、アンケートの実施による把握など、早期に把握し声掛けしていき必要がある。	
		・ 交通法規を遵守し、交通安全意識の向上	・ クラス単位で交通安全教育を実施し、交通安全意識の向上に努めた。登下校時の苦情などが数件寄せられた。				○	・ 職員による立寄やHRでの呼びかけ、交通安全教育を実施していく。また、他の機関と協力して改善を目指す。	
		・ 法律・校則を遵守する意識の向上 規律と秩序ある生活態度の育成	・ 規範意識をもちながら生活できているが、一部にゴミの投げ捨てや言葉遣いなどモラル面での課題が見られる。				○	・ 他の機関とも協力しながら学校全体として規範意識の向上に努めていく必要がある。	
		・ マナー・向上の促進 節度ある学校生活と地域からの信頼構築	・ イヤホンやスマホの利用も含め、公共施設・公共機関や生活全般におけるモラルの欠如が散見された。				○	・ HRでの呼びかけ、職員による通学路の見回り、または生徒による奉仕活動等を進め、マナーの向上を図る。	
		・ 挨拶・身だしなみ・時間を守る指導の重点化 全職員による同一調の指導	・ ビスマ・遅刻率は増加傾向。スカート丈の短さ、ジャージ、パーカー、トレーナー着用については依然として課題であった。				○	・ 生徒、職員、保護者による三者の共通理解のもとで身だしなみ等の改善を図っていく必要がある。	
	2 健全育成	・ 人権を守る土壌の育成 他者への配慮ができる生徒の育成。 スマートフォンの適切な使用についての定期的な指導。	・ SNS関係のトラブルが絶たない。特に1年生の1学期にトラブルが多発。人権問題とともにモラル意識の欠如などが背景にあるように感じる。				○	・ 外部講師を招いての講演会に加え、クラス、教科、クラブ活動などあらゆる教育活動の場において継続的に指導をしていくことが必要である。	
		・ 生徒との対話の尊重 問題行動の未然防止・早期解決	・ 職員から生徒への声掛けにより問題行動の未然防止、深刻化の防止を図ることができた。				○	・ 生徒の様子の観察、対話を重点に置きながら、職員間での情報共有を行い早期対応に努めたい。	
		・ 学年・クラス担任と連携し、生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対応	・ 遅刻者が多くSHRでの連絡停滯が生じやすかった。そのため生徒、担任、係との連絡も十分が多かった。				○	・ 係と担任、さらには保護者との密に連絡を取りながら、連携した指導を進めていきたい。	
		・ 指導の定着を図る事後指導	・ 声かけや面談を通して教科担当や他の機関と連携を図りながら進めた。				○	・ 様子を注意深く見守りながら、定着、問題行動の再発防止に努めた。	
		・ 生徒会活動との連携による、指導効果の向上 特に身だしなみの改善	・ 科/実習における身だしなみ確認など、生徒会と連携しながら実施できた。日常生活での連携も強化したい。				○	・ 校友会、特に生活委員会を中心に、身だしなみや生活習慣の改善に向けた活動を支援していきたい。	
・ 教育相談係	3 相談と支援	・ アルバイトへの対応の推進 本校が希望している意見を許可生徒への指導に活用	・ アルバイトについては年度更新等を含め許可制であることを再三周知することができた。				○	・ アルバイト実施者に対して、本分を怠ることのないように指導を充実させていきたい。	
		・ 交通・生活・行動困難者への配慮と協力 警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・施設調査と改善呼びかけ)	・ 警察官に來校していただき、特殊詐欺、性被害、薬物乱用についてお話をいただいた。				○	・ 警察やボランティア団体と生徒の健全な育成にむけて、引き続き協力・連携を図っていきたい。	
		・ 生徒の状況把握と情報の共有 組織的な支援	・ 生徒情報を職員会で確認。常時閲覧可。 係は各学年に配属。担任、学年、クラブ顧問と連携して対応しようという心がけができた。 ・ 係相談1年32名、2年18名、3年14名、延べ315回、昨年度延べ129回)相談室拠点の生活13名、うち10名は教室に展れるようになった。				○	・ 配慮すべき生徒の周知、情報共有には引き続き努力する。 ・ できる限り授業時間以外に相談に来るよう生徒に連絡をする。 ・ 校中の他の係やたんに、学年と連携して効果を高めるよう引き続き努力する。	
		・ 関係諸機関や外部機関との連携支援	・ スクールカウンセリングは現在まで83回。 ・ 学校での対応について医師に聞いたケースが3件。 ・ 諏訪市・茅野市の「子育て支援」に協力を得て対応している生徒4名。・スクールソーシャルワーカーの協力を得ている生徒1名。				○	・ カウンセリング配当時間が不足。 ・ 来年度もコンサルテーションには担任の先生に都合のつく範囲で同席。 ・ 来年度も外部関係機関にも積極的に支援の協力をお願いしていく。	
		・ 校内支援態勢の充実 いじめや不登校の予防と適切な対応	・ クラス、クラブ、授業等の活動の中で担当職員が生徒とよく対話して対応していただいているケースが多い。 ・ 生活アンケート、メモを有効利用するよう努めた。				○	・ 今後も生徒との対話を重ねていく。 ・ 生徒のことを相談できる職員関係を大切にしたい。 ・ アセス研修会を開催予定。	
	4 人権意識と仲間づくり	・ 人権意識に基づく学級経営 ・ 人権教育の定着と向上 ・ 健康・安全教育の充実 ・ 生徒及び職員の健康支援 ・ 感染症予防と環境衛生の推進	・ 教育相談係と共催で平和・人権動画鑑賞会を実施。・コロナの影響で職員研修を実施できなかった。 ・ 行事の多いに全体または個別に支援を行った。・保健委員会の当番活動、保健だよりの発行。				○	・ 道徳教育計画は昨年同様、変更せず。・コロナ予防の為学年別・各教室で動画を視聴。来年度も安全に実施したい。 ・ コロナで生徒健康の活動に制約があるから、日常の健康チェック・消毒の徹底をはかるよう活動した。	
		6 校舎内外の美化の推進	・ 平素のゴミ分別など呼びかけや行事前などの清掃点検は整美三位及び教務係が行うことができた。感染対策のためゴミ袋は極力新たなものと交換するようとした。個人のゴミを包む小分けゴミ袋に関しては徹底が難しく、終了後に終わらせた。				○	・ 再度、分別を徹底するようよう呼びかけを行ってきたい。感染対策の小分けゴミ袋の徹底については必要性の是非を含め検討していきたい。	
	7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・ リーダーの育成と自主的に組織的な活動 委員会活動の活性化 ・ 校友会行事・文化祭の質的向上	・ 生活委員会の活動について活性化ができた。文化祭については、全校が一室に集まること出来たことが常に悩みの種であった。				○	・ 具体的な策は無い。今後も考えていくしかない。	
		8 クラブ活動の充実	・ 加入促進と各部の活発な活動 ・ 各種大会、コンクール参加に対する支援	・ クラブ説明会は資料と説明のみ、「加入促進」という観点には再考の必要がありそう。社行会は今年度は実施出来た。				○	・ クラブ説明会は何かしら披露するものを取り入れた。社行会は全校集会の形式で行いたい。いずれも感染状況次第。
II 進路指導 ・ 進路指導係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・ 進路講演会、校外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立	・ 1学年では9月に長野県中小企業家同友会諏訪支部様のご協力のもと、18社の地元企業にご来校いただき、「諏訪実ミニッセ」を実施。また、12月には54社のご協力のもと最大で2日間わたるインターンシップを実施。 ・ 2学年では10月に長野県中小企業家同友会諏訪支部様のご協力のもと、18社の地元経営者の方にご来校していただき、「経営者と語る会」を開催し、経営者との対話を実施。 ・ 10月の「経営者と語る会」後には、1〜3年36名と参加企業の経営者で、座談会を実施。 ・ 3年では、諏訪商工会議所様のご協力のもと、5月に「企業勉強会」、7月に「企業説明会(75社参加)」を実施した。				○	・ コロナ感染や受け入れ先が忙しい時期と重なるため、来年度以降、インターンシップの時期を検討する。	
		・ 2年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解 諏訪実ミニッセ、インターンシップ、経営者と語る会、経営者ジョブシャドウによる地域産業理解 オープンキャンパスの活用 諏訪実ミニッセへの参加	・ 6月に、希望者に対して、応募前見学としては別に、「職業研究」として企業見学を実施。 ・ 応募前企業見学では、企業とのミスマッチを少しでも減らすために、1人2社以上の見学を行った。				○	・ 「職業研究」としての企業見학을来年度は5月ごろから動いていきたい。	
		・ 3年生 本人および保護者の納得した進路選択 (進路希望とその実現)					○		
	2 進路保障	・ 個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現					○		
							○		
	III 学習指導 ・ 教育課程委員会 ・ SPH後継事業 (地域入教育・諏訪)推進委員 1学年 2学年 3学年	1 21世紀型学力の養成 教育課程の検証	・ 科目指導法の研究と実践 ・ 学習理解度の把握と定着への継続的指導	・ 教育課程の見直しを実施した。				○	・ 新課程が進むにつれ分かってくる不備をこれから早速やかに検討し改善する。
		2 意欲・関心の喚起と観点別評価	・ シラバスの検証と授業改善 ・ 観点別評価の実践研究 ・ 授業態度、授業に臨む姿勢の指導	・ 県の学習評価研修会をだれでも参加できるようにPC教室で実施した。 ・ 授業充実のための生徒アンケートを2年回実施し、生徒からの意見を				○	・ 観点別評価について、現状を踏まえ、さらに議論していく。 ・ 授業アンケートを受けて改善点を研究し、授業のさらなる充実を図る。
		3 基礎学力の定着	・ BabyStep(ドリル)の活用 ・ (集中力を高める)読書週間の充実 ・ 家庭学習の習慣づけ ・ 地域文化・伝統に関する講演会 ・ 文化ビジネス研究における実践 ・ 地域課題についての発表会	・ 一般常識・国・数・英のBabyStepドリルを実施。 ・ 基礎力診断テストに向け補習を実施。 ・ 地域の職者の方に講演、講義、活動への協力をいただき地域の文化・伝統への関心が高まった。				○	・ BabyStepの実施方法について、検討中。
		4 SPH後の地域との連携						○	・ 地域課題に対して取り組みができてきている。外部への報告など充実を図って、連携を深めていく。
								○	

	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策		
					A	B	C	D			
教育活動	Ⅳ 専門科 商業科 会計情報科	1 専門教育の改善・充実	・ 専門科目の学習目的の理解と意欲の喚起 ・ 社会人基礎力や専門性を高める授業の実施と学習支援	<商業・会計情報科> ・ 1学年は、新たなコース制による専門科目への意欲向上と意識付けを行った。 ・ 多様な生徒の能力に応じた授業の展開や講座編成、補習の実施が継続的な課題である ・ 感染症対策をとって学習成果発表会開催 ・ 社会人講師による講習を実施 ・ 校外研修を各学年で実施			○		<商業・会計情報科> ・ 2年次からのコース制への変更による専門科目への理解の促進と、1年次の基礎科目の定着を図る。 ・ コース内でチームティーチングや少人数講座展開を実施する。		
		2 検定試験の活用	・ 各種検定を利用した学習意欲の向上 ・ 進路活動を意識させた検定取得の促進	<商業・会計情報科> ・ 生徒が検定に向かう意欲は見られた。また、検定を利用しつつも検定学習が中心にならない授業を一部実施できた。 <服飾科> ・ 各種検定に積極的に取り組み、補習や対策講座等の支援を行った。 ・ 家庭科技術検定1級2級取得11名			○		<商業・会計情報科> ・ 授業による一斉受験だけでなく主体的な受験を促す ・ 授業で一斉受験する検定科目や級を見直す。 <服飾科> ・ 検定の意義を理解させ、意欲を高めて受験できるよう指導する。		
		3 地域との連携	・ 各種取り組みの継続と発展 ・ 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業	<商業・会計情報科> ・ 課業タウンでは新たに福祉大学校保育園との連携や、地域企業、他校の出張販売を行った。また、商店街と連携したキッズビジネスタウンを1月に実施する。 ・ 文化ビジネスでデュアルシステム実習を行い、授業と連動した実践的な学習を行った。 <服飾科> ・ 諏訪市ものづくり科との取り組みは、検定中。 ・ 岡谷市シルク推進事業に参加し、シルクドレスを制作			○		<商業・会計情報科> ・ コースの特徴を踏まえたデュアルシステムや課実タウンでの取り組みを計画する。 ・ より地域と連携した課実タウンのあり方を検討する。 <服飾科> ・ コロナ禍でも可能な取り組みを考える。 ・ 製作時間をどう確保していくか検討したい。		
		Ⅰ 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集 ・ 業務の整理・改善と新規企画(緊急メールの活用)(ICT機器の有効活用) ・ PTA活動の精選	・ コロナ禍の対応を始めて、臨機応変に対応してきたが、直前の予定変更が目立ったので、事前に予測できることは早めの対応を心掛			○		・ 年間行事計画の作成の際は十分、係・学年と審議しながら進めたい。	
学校運営			・ 緊急時等の適切な情報把握と対応(緊急メールの活用)(クラスルームの利用)	・ コロナ対応や学校行事の関係で、使うことが多かった。伝達がより確実に行えるようになってきている。			○		・ 対面で伝達すべきこと、web会議で済まされることを見極めながら進めていきたい。		
			・ 校務支援システムによる情報の共有(月歴、施設予約、生徒の出席率、成績)	・ 授業改善を目的とした先生方同士の授業公開を行った。先生にも生徒にも実りある企画となったので継続していきたい。 ・ ICT機器(タブレット等)の活用については、少しずつ校内全体に浸透してきている。より効果的な使用方法を模索したい。			○		・ ICT機器を使った授業公開や、研修会も進めていきたい。		
			2 職員研修の充実	・ 研修内容の精選 ・ 研修会の設置と支援	・ コロナ対応や学校行事の関係で、使うことが多かった。伝達がより確実に行えるようになってきている。 ・ 学校現場において、様々な情報伝達をwebで行う形に少しずつ移行しつつあり、職員もその形式に慣れつつある。うまくいっているところと、そうでないところを整理しながら、今後も継続していきたい。			○		・ 年度当初に日程を決めて計画的に進めたい。	
			3 広報活動の充実(開かれた学校づくり)	・ 学校案内・学校要覧の発行 ・ HPの充実(更新) ・ 保護者等への情報発信(学校通信、PTA連絡網とHP) ・ 学校開放事業の周知と充実(中学生体験入学) (授業公開)	・ 例年通り、4月に発行することが出来た。学校訪問等の際に活用している。 ・ 情報係と連携して、学校のことが伝わるように、随時更新してきた。 ・ 本年度はインスタグラムも活用した。 ・ 学校通信を通して、学校行事や授業内容等、発信することができた。			○		・ 定期的に内容・レイアウトなどを見直して、より分かりやすく伝わるものになるよう、改善していく。 ・ 時代の流れに合わせてより良い伝達方法を考えたい。	
			Ⅱ 学校評価委員会	1 本校の課題の共有と認識	・ 課題の整理と各分掌への報告	・ 体験入学は商業科・服飾科と連携し、それぞれの科の授業体験を行った。参加者からは好評の声をたくさんもらうことができた。 ・ 授業公開は6月と10月に行った。商業科のコース編成の変更なども追い風となり、参加者が非常に増えてきている。 ・ 毎回、学校現場の中だけでは気づくことのできない貴重な意見を頂いている。通知を送る(日程を周知)することできるだけ迅速にして、少しでも多くの方々に学校を見て頂き、意見を頂く機会を大切にしていきたい。			○		・ 校内の教員の参加者が増えるように呼び掛けていきたい。
			Ⅲ 地域連携 ※商業・服飾以外	1 近隣へのボランティア	・ 環境美化の推進:整美委員会を中心に学年(学級)単位で通学路のゴミ拾い・除草を行う。(整美係) ・ 交通・生活・行動困難者への配慮と協力 警察・ボランティア団体との連携活動(防犯登録・施設調査と改善呼びかけ)(生徒指導)	・ 年度当初の実施時期を早め校庭の草刈りを行った。地域の奉仕活動に関しても検討していきたい。 ・ 警察官に果敢に相談していただき、特殊詐欺、性被害、薬物乱用についてお話をいただいた。			○		・ 猛暑や雨天で実施できない学年もあったため、適切な実施日時を年間のHFR計画作成の段階で決定したい。 ・ 警察やボランティア団体と生徒の健全な育成にむけて、引き続き協力・連携を図っていきたい。
			2 高校大学等との連携	・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験によるインターンシップ	・ 夏季・春季休業中に、大学の授業を体験する「松大チャレンジ」を計画していたが、コロナ禍で中止した。			○		・ 来年度は、1・2学年の希望生徒を対象に、「松大チャレンジ」を計画し、高大接続に向けて、進路意識の高揚を図っていく。	
			3 企業との連携	・ インターンシップ、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会、経営者ジョブサードワ等の推進(進路) ・ 企業勉強会、企業説明会の推進(進路) ・ 採用担当者の講演会(進路) ・ 内定生徒と採用担当者との面談(進路)	・ 諏訪商工会議所様を通して、インターンシップに協力いただける企業を募った。また、長野県中小企業同友会諏訪支部様のご協力を得て、諏訪実ミニメッセ、経営者と語る会を実施した。 ・ 12月に、内定者懇談会を実施した。社会人になるにあたっての心構え等、ご指導いただく良い機会となった。			○		・ 今後も各団体、企業との連携を境界していく。	
		4 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等(教務)	・ 計画を立て、11月中に実施した。お互いの情報交換のための良い機会となっている。			○				